

---

# 秋田県における院内コーディネーター（Co.） 活動1年目に対する評価

土方仁美、佐藤 滋\*、加藤哲郎\*\*  
秋田県臓器移植推進協会、秋田大学医学部 泌尿器科\*  
秋田県総合保健センター\*\*

## Evaluation of action of hospital coordinator in the first year in Akita prefecture

Hitomi Hijikata, Shigeru Satoh \*, Tetsuro Kato \*\*  
Akita Organ Transplant Promoting Society  
Department of Urology, Akita University School of Medicine \*  
Akita prefecture total health center \*\*

### <緒 言>

臓器移植は第3者の善意の臓器提供により成り立つ医療である。平成9年に施行された臓器移植法では基本的理念の1つに、臓器提供に関する意思是「提供したい」「したくない」どちらも大切な意思であり、尊重されなければならないことを掲げている。これを受け、厚生労働省は従来から行われてきたドナー登録を廃止し、登録手続きが不要な臓器提供意思表示カードの配布を開始した。現在までに当県でも約60万枚が配布されている。

このような状況の中、当県では平成12～13年にかけて、移植 Co. に寄せられた臓器提供情報が9件あった。その内7人はカードを所持していたが、全情報の66.7%は心停止後の連絡であったため、意思を生かすことが出来なかった。

我々はこの現状の背景にある、県民の臓器提供意思を有効に生かすことが出来ない医療システムを問題と捉え、患者や家族の臓器提供意思を確認する医療システムを早急に構築することを目指し、平成13年12月に活動を開始した。平成14年4月より各病院に院内 Co. の設置が始まり、活動が開始されている。

### <目 的>

県民の臓器提供意思が生かされる医療システムの構築に向け、院内 Co. 活動1年目に対する評価を行った。

### <方 法>

病院内における臓器提供意思の確認システムの構築状況を、院内 Co. の設置・育成・活動状況の分析を通し検討した。

## <結果>

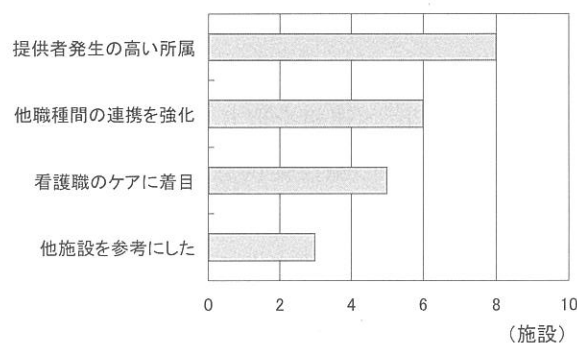
### 1. 院内 Co. の設置状況

院内 Co. の活動 1 年目末現在、院内 Co. が設置された病院は 10 施設。設置人数は合計 43 人、職種は半数以上が看護師でその他医師や MSW であり、ほとんどの施設において複数職種、複数名で構成されている（図 1）。その構成理由として最も多かったのは「提供者発生の可能性の高い所属から選出した」であり、その他に「多職種間の連携を強化し、支援体制の充実を図るため」「看護職のケアに視点を置いた」「他施設の状況を参考にした」などが挙げられた（表 1）。

No	病 院 名	人 数	職 種		
			医師	看護師	MSW
1	鹿角組合総合病院	3	1	2	—
2	大館市立総合病院	5	4	1	—
3	北秋中央病院	1	—	1	—
4	山本組合総合病院	2	—	2	—
5	湖東総合病院	3	—	3	—
6	秋田大学医学部附属病院	7	4	3	—
7	秋田赤十字病院	6	2	2	2
8	由利組合総合病院	4	2	2	—
9	平鹿総合病院	4	—	4	—
10	雄勝中央病院	4	—	3	1
計		39	13	23	3

図 1. 院内 Co. 設置病院

表 1. 院内 Co. 設置構成の理由



### 2. 院内 Co. の育成状況

平成 14 年 3 月より院内 Co. の育成を目的とし、定期勉強会と訪問を開始した（図 2）。第 1 回勉強会の参加者は、院内 Co. とは何か不明な様子でその声が多数を占めた。勉強会を重ねるにつれ、「院内 Co. には何が必要か」「院内では何が出来るか」という具体的活動への主体的検討に変化した。また月 1 回の定期訪問の際には、院内活動の開始、充実を目的とした院内研修会の開催依頼や協力が得られない医師との懇談依頼を受けるなど、院内活動への支援を求めるものが多くなった。

このように、勉強会や訪問の機会は情報提供という役割に加え、問題の明確化や解決策の計画立案を支援する機会へと移行した。

回	内容	参加者	内容
1	H14年3月	17病院 49人	院内Co. の実際の対応 (藤田保健衛生大学 原先生)
2	H14年6月	16病院 43人	活動状況と問題点 (各病院からの報告とディスカッション)
3	H14年9月	18病院 40人	善意の臓器提供意思を無駄にしないために(横浜総合病院脳外科 平元先生)
4	H15年3月	15病院 35人	ロールプレイ～意思確認場面(参加者) 提供者家族のインタビュー(VTR)

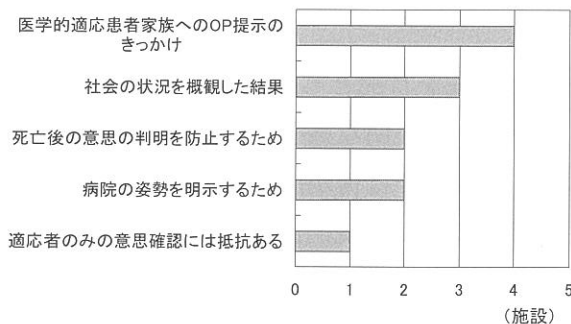
図 2. 勉強会の開催状況

### 3. 院内 Co.活動状況

各病院内での院内 Co.の活動は、移植 Co.との定期的な情報交換のもとに行われている。院内のポスター掲示や意思表示カード、リーフレットの設置など院内環境の整備が8施設で行われ、院内職員に対する普及活動も6施設で実施されている。また看護師である院内 Co.を中心に、入院患者へのアナムネーゼや調査用紙、入院申込書への記載等の形式でカードの有無を確認するシステムが導入された施設が6施設となった。その理由には、オプション提示の際の情報源やきっかけ作りになる、社会の状況を概観した結果、死後の意思判明を防止するため、提供意思がある場合病院はその意思を尊重、支援する姿勢であることを県民に明示するため、脳死診断患者のみに確認することには抵抗があるなどがあげられた(表2)。一方、院内 Co.となった医師を中心に、脳死診断後の家族に臓器提供に関する説明を希望するか否かを確認(オプション提示)するシステムの検討が3施設で行われ、2施設で導入されている。実際に家族が臓器提供の説明を希望したため移植 Co.へ連絡を取り、関係部署の支援を実施した施設も2施設となっている。

入院時に患者の臓器提供意思を確認するシステムが導入された施設の内、オプション提示に拒否的であった2施設の脳外科医からは、「入院時に何らかの情報があれば、その情報に合わせたオプション提示が可能である」という言動が聞かれ、患者や家族の臓器提供意思の確認に対する協力的姿勢への変化が見られた。

表2. 入院時臓器提供意思確認システム導入の理由



#### <考察>

1. 各病院における臓器提供意思の確認システムの構築は、院内 Co.の設置・育成・活動という要素に大きく影響を受けながら進められている。複数職種複数名で設置されている院内 Co.の構成が、各職種下で可能な活動の開始とそれらの連動の円滑化を促し、システムの確立度に作用したと考える。

2. また院内 Co.の育成度が高まるとともに、病院内において患者や家族の臓器提供意思が活かされるシステムを構築するために、院内 Co.が具体的な活動内容を主体的に検討する傾向が見られ、実践を誘導したと思われる。

3. 入院患者へのカード所持に関する確認の時期は、入院時と脳死診断後に大別される。入院時に確認した何らかの情報は、脳死診断後の家族に意思を確認する時のきっかけとなり、実施の円滑化が想定できる。そのため入院時の確認システムの導入は、オプション提示に対する脳外科医

---

のモチベーションに影響を与え、システム化に対する理解を向上させたものと推測する。

### <結 語>

活動1年目は院内 Co. の設置、育成が図られるとともに、具体的活動の主体的検討や実施が進められた。院内 Co. 活動に対する支援も移植 Co. や移植医に加え、県行政の協力も得られるようになり、2年目の現在、院内 Co. は12施設48人となった。また入院時の確認がシステム化された施設は7施設に増え、オプション提示実施施設は3施設となった。

各病院における1年目の院内 Co. 活動の状況を各院内 Co. と共に振り返り、評価を通して2年目の目標設定や計画立案、実行に結び付けているところである。特に入院時の意思確認システムの導入は、脳外科医等をはじめ院内の理解、協力体制の充実を可能にし、県民に対しての病院の姿勢を明示できる機会として有効であると思われることから、システム化に対する支援の強化を通して、県民の提供意思が生かされるシステム作りを進めてゆきたいと考えている。

### 参 考 文 献

- 1) 佐藤 滋、加藤哲郎、土方仁美：秋田県における臓器提供推進プログラムとその取組み、今日の移植15(5)：426-432、2002.
- 2) 大島伸一、高原史郎、長谷川友紀、雨宮 浩、篠崎尚史、鈴木和雄、大田原佳久、高橋公太、秋山政人、齋藤和英、藤 堂省、林田 裕、佐藤 滋、飯田博行、上領頼啓、高井公雄、杉谷篤、西 一彦、松屋福蔵、中村信之、田中秀治、吉田克法、相川 厚、服部良平、藤田民夫：臓器移植の社会基盤に向けての研究－病院開発モデル作成－、厚生労働科学研究費補助金「ヒトゲノム・再生医療等研究事業」平成14年度総括・分担研究報告書、P129-136、2003.
- 3) 大島伸一、高原史郎、長谷川友紀、雨宮 浩、篠崎尚史、鈴木和雄、大田原佳久、高橋公太、秋山政人、齋藤和英、田中信一郎、藤 堂省、里見 進、堀見忠司、林田 裕、吉田克法、服部良平、藤田民夫：病院開発モデル作成、平成13年度厚生科学研究費補助金「ヒトゲノム・再生医療等研究事業」研究報告書、P117-128、2002.
- 4) 松本幸枝、鎌倉里美：脳死患者家族への関わり－臓器提供を希望する家族の心理プロセスを知る－、今日の移植11(2)：249-252、1998.
- 5) 若杉長英：悲嘆から死別への過程／ドナー家族の精神的ケア、コーディネーターのための臓器移植概説（白倉良太、高原史郎、芦刈淳太郎）、P145-151、日本医学館、東京、1997.
- 6) 芦刈淳太郎、菊池耕三、浅野 泰、寺岡 慧、野本喜久雄：日本臓器移植ネットワークに連絡が入った臓器提供意思表示カード・シールによる情報の分析、今日の移植16(1)：79-84、2003.